

第6学年 特別の教科 道徳 学習指導案

令和4年6月27日(月)5校時

2組 34名

指導者 山川 哲郎

1 主題名 相手を理解する心 B-11「相互理解・寛容」

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

2 教材名 「ぼくだって」(小学校道徳「生きる力」6年 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) 主題について

本主題は、第5学年及び第6学年の指導内容B-11「相互理解・寛容」を受けて設定し、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」をねらいとしている。相互理解・寛容とは、多様さを相互に認め合い理解しながら、広がりや深まりのある人間関係を築くために、自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに、謙虚で広い心をもとうとすることである。人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合う関係を築くことが不可欠である。異なった意見や立場をもつ者同士が互いに尊重し合うことで、広がりや深まりのある人間関係を築くことができる。しかし、私たちは、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さをもっている。だからこそ、自分自身が成長の途上にあり、至らなさをもっていることなどを考え、謙虚な心で相手から学ぶ姿勢を常にもち、自分と異なる意見や立場を受け止めることや、広い心で相手の過ちを許す態度をもつことが大切である。

この時期の児童は、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをこれまで以上に意識するようになる。また、考えや意見の近い者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする行動も見られることがある。

そこで、本主題の学習を通して、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考え、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる立場を尊重し、適切に対処できるような態度を育みたい。

このような学習で身に付けた力は、中学校での「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」に発展していく。

(2) 相互理解・寛容に関する学年段階ごとの内容項目とその傾向

	第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び第6学年	中学校
内容項目		自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。
指導にあたって		相手の言葉の裏側にある思いを知り、相手への理解を深め、自分も更に相手からの理解が得られるように思いを伝える相互理解の大切さに気付くようにする。	広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるようにする。	個性とは何かについて正しく理解するとともに、自らの意志に背いて他に同調するのではなく、自分の考えや意見を伝えること、そして互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解できるようにする。

(3) 児童の実態 調査日：令和4年4月28日 調査人数：35名 調査方法：質問紙法

ア 道徳科の授業に関すること【表1】

1 道徳の授業は好きですか。	はい 20名	いいえ 14名	どちらとも言えない 1名
(「はい」の理由)	(「いいえ」の理由)		
・ 思っていることを自由に言える (1名)	・ 考え方が分からない (6名)		
・ 相手の考えが分かる (5名)	・ 異なる意見を出しづらい (8名)		
・ 人の気持ちが理解できる (14名)			
2 道徳の授業で困っていることはありますか。			
・ 人と異なる意見を出しづらい。	・ 気持ちを考えるのが難しい。		

イ 本主題「相互理解・寛容」に関すること【表2】

1 これまでに、友達の失敗を許せなかったことがありますか。	【できなかった経験】		
	はい 4名	いいえ 31名	
(1) それはどんなことですか。(「はい」と答えた児童のみ回答)			
・ リレーのバトンパスを失敗して負けたとき			
・ 長縄エイトマンのとき、目標回数目前で引っかかって目標が達成できなかったとき			
(2) なぜ許せなかったのですか。(「はい」と答えた児童のみ回答)			
・ 勝ちたかったから			
・ これまで頑張ってきたのに、目標が達成できなくて腹が立ったから			
2 これまでに、自分の失敗を友達や周りの人に責められたことがありますか。	【された経験】		
	はい 7名	いいえ 28名	
(1) それはどんなことですか。(「はい」と答えた児童のみ回答)			
・ 長縄で引っかかったときに文句を言われた。			
・ 活動中、不注意で友達とぶつかってしまっって責められた。			
・ ゲームでミスをしてしまったときに文句を言われた。			
(2) そのとき、どんな気持ちになりましたか。(「はい」と答えた児童のみ回答)			
・ 自分の運動神経が良ければ迷惑をかけないのかなと思った。			
・ 自分も頑張ったのと思った。			
・ 悲しかった。	・ 嫌な気持ちだった。		
3 これまでに、友達に腹が立ったが、許せた経験はありますか。	【できた経験】		
	はい 17名	いいえ 18名	
(1) それは、どんなことですか。(「はい」と答えた児童のみ回答)			
・ 長縄で引っかかった友達に腹が立ったが許した。			
・ バスケットのシュートを外した友達に腹が立ったが許した。			
・ リレーのバトンパスをミスした友達に腹が立ったが許した。			
・ 鬼ごっこで自分ばかり狙ってくる友達に腹が立ったが許した。			
(2) なぜ許そうと思ったのですか。(「はい」の理由)			
・ 練習の時も一生懸命頑張っていたから	・ 失敗は誰にでもあるから。		
・ 謝ってくれたから。			
4 相手がミスをしてしまったとき、どのような気持ちをもつことが大切だと思いますか。	【心構え】		
・ 失敗は誰にでもあると理解する気持ち (15名)			
・ 相手が頑張っていることを褒める気持ち (7名)			
・ まずは落ち着いて、すぐに怒らない気持ち (5名)			
・ 優しい気持ち (4名)			
・ アドバイスをする (4名)			
5 友達がミスをしたとき、どのような考えをもつことが大切だと思いますか。	【心構え】		
・ 相手の気持ちを考える	・ 思いやり	・ 相手を大切にする	
・ 仲間意識	・ 相手の良いところを褒める		

<考察>

【表1】の結果より、本学級の半数以上の児童が道徳の学習に意欲的であることがわかる。これまでの学習から、自分の意見を言えたり、相手の意見を聞いたりして答えを導き出したり意見をまとめたりする楽しさを感じてきているためと考えられる。その一方で、苦手に感じている児童も約半数いることが分かる。これまでの経験から、うまく考えがまとまらなかったり、自分の意見を言えなかったりして楽しくないと感じている。道徳の学習が好きだと答えた児童の理由から、「相手の考えが分かる」「相手の気持ちが理解できる」と相手を意識している児童もおり、そこから多角的な考えを得られることに意義を見出している。しかし、「自分が思っていることを自由に言える」と、自分中心の理由もある。様々な教科のグループ活動において、自分の意見で物事が決定した経験から楽しさを感じているのではないかと考えられる。学級の様子を見ても、活発に発言する児童の意見で物事が決まってしまうことも多く、その結果、意見を出しづらいと感じている児童の発言の機会が少なくなり、グループ活動は楽しくないと感じてしまっていると考えられる。そこで、グループ内の意見を認め合い、多様な意見を聞けるようなグループ交流の工夫をしたい。そして、多様な意見を出したり聞いたりすることで、多面的・多角的な見方に触れ、考えを深めることができるというグループ交流の良さに気付かせたい。

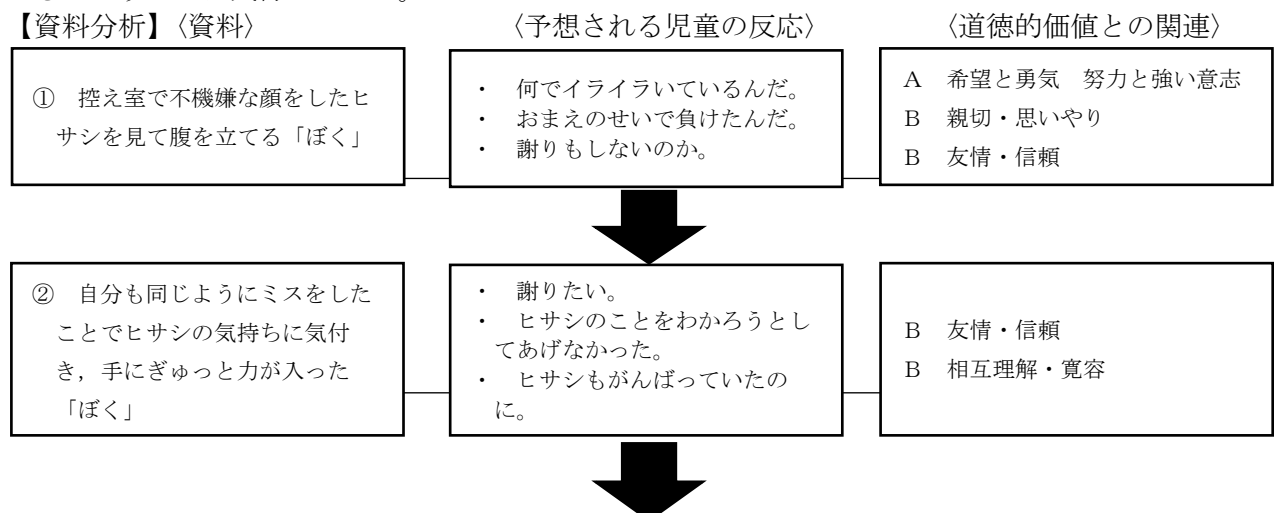
【表2】の1, 2, 3の結果より、本学級のほとんどの児童が、友達の失敗を責めたり責められたりした経験がないと感じており、友達の失敗を許せた経験がある児童が半数いることが分かる。3-(2)の結果からも同じような経験をしたり、相手も頑張っていることを認めたりと、相手を理解することが許せた経験につながったことが分かる。友達の失敗を許した経験がないと答えた児童も半数いるが、「友達が失敗した場面に出会ったことがない」と感じている児童がほとんどであった。しかし、普段の学級の様子を見ていると、友達の失敗に対して、からかう様子が見られることもある。また、失敗を責められた経験があると答えている児童もいることから、自分はそのつもりがなくても、受け取る側からすると、相手の表情や口調で責められていると感じてしまうことが分かる。アンケートの結果には表れていないが、そのような経験をしたことがある児童は、少なからずいると考えられる。4, 5の結果から、友達の失敗を認めるためには、相手を理解することが大切だと気付いている。

そこで、本学習を通して、友達の失敗を責めてしまいそうな身近な事例を準備し、そのとき自分はどうかを考えさせ、失敗した友達を責めてはいけないということは分かっているが、つい責めてしまうこともあるという心の弱さに気付かせたい。そして、腹が立ってしまっても友達とどのように関わったらよいかを考えさせる機会にしたい。また、グループ交流で多様な考えに触れさせ、ミスした友達を認めるためには、相手の気持ちや相手も頑張っていることを理解することも大切であることを4, 5の結果を生かしながら考えさせるようにしたい。

(4) 教材について

本教材は、全国大会出場をかけた、エースのリョウタとできる最後の試合がヒサシのミスで台無しになってしまう。主人公の「ぼく」は、ミスをしたヒサシを責めるが、自分も同じように失敗をすることで、ヒサシの辛い気持ちに気付くという内容になっている。本学級でも、主人公のように、友達の失敗に腹を立てたり、また、同じように失敗をすることで、責められたりした経験がある児童がいる。本教材は、児童にとっても、主人公の心情の変化を共感しやすい内容であると思われる。ヒサシの辛い気持ちに気付く、ヒサシを練習に誘う「ぼく」の心情を考えることから、相手の立場になって考える大切さに気付く、相互に理解し合うことがより良い関係を築くことにつながるということに気付かせたい。

【資料分析】〈資料〉



③「またいっしょに練習をしよう」とヒサシを誘う「ぼく」

- ・ 一緒に全国大会に行こう。
- ・ 何かあったらぼくが支えられるようにしよう。
- ・ 一緒に最高のチームを作ろう。

- A 希望と勇気 努力と強い意志
- B 友情・信頼
- B 相互理解・寛容
- C よりよい学校生活
集団生活の充実

4 本校の研究テーマとの関連

(1) 研究テーマ

「自己を見つめ、他者のよさに気づき、互いに認め励まし高め合う子どもの育成」

(2) 授業の視点

視点ア②交流活動の工夫

ア 多面的・多角的に考えることができるように、自分の意見と友達の意見を比べさせたり、考えを深めたりする発問をする。

イ 自分事として課題を捉え、多面的・多角的に考えさせるために、日常生活で起こりそうな問題場面について学び合いをさせる。

視点イ③振り返り

ア 今後の実践につなげるために、本時の学習を振り返って考えたことやこれから実践してみたいこと、大切にしたい気持ちなどを「振り返りカード」にまとめさせる。多様な考えに触れさせるために、友達と交流させたり、発表の時間を設けて数人に発表させたりする。

5 指導上の留意点（ は視点アの検証、 は視点イの検証、 は視点ウの検証）

本主題の指導を展開するに当たって、次のような点に留意していきたい。

【本時まで】

本時までに道徳的価値と自分との関わりなどを児童自身に意識させるために、資料は事前に読ませておく。その際、主人公の心情で気になった所や印象に残った所に線を引かせておく。また、「友達がミスしたときに、どのような考えをもって行動すればよいだろうか。」という問題意識をもちやすくするために、体育の学習でリレーに取り組んでいる写真を提示し、「リレーでバトンパスミスで負けてしまった」という事例から自分の立ち位置を明らかにさせておく。

【意識化・焦点化の過程】

本時までに明らかにした立ち位置を確認し、失敗した友達を責めてはいけないと分かっているながらも、腹を立ててしまうという友達を責めてしまう心の弱さに気付かせたい。

【追究・深化の過程】

問題を意識した児童に、教材「ぼくだって」の主人公「ぼく」の行動で気になった場面を出させる。相手の気持ちや立場を理解することで、よりよい関係を築くことができるということに気付かせるために、主人公も同じように失敗し、ヒサシの気持ちに気付く場面に焦点を当て、その時の主人公の気持ちを出し合わせたい。その際、自分の考えをまとめる時間を十分に確保する。なかなか意見が書けない児童のために補助発問を準備する。多面的・多角的な考えに触れさせるために、自分の考えを見て回る時間を確保し、自分の意見と比べられるようにする。

【自覚化の過程】

自分事として問題を捉え、今後の実践につなげるために、リレーでバトンパスをミスしてしまった友達に対して、どのような言動をとったらよいか学び合いをさせる。多面的・多角的な考えに触れさせるためにグループで交流をさせる。ロイロノートを活用し、考えを書かせる際には、「○○する」という言動だけを書くのではなく、なぜそのような言動を取るのか理由も付けて書かせる。出された考えから共通しているところやキーワードとなりそうな言葉を出し合わせ、そこから、友達がミスしたときは、相手を理解し、認めることが大切であることに気付かせたい。更に、本時の学習を振り返って考えたことやこれから実践してみたいこと、大切にしたい気持ちなどを「振り返りカード」にまとめさせる。多様な考えに触れさせるために、発表の時間を設けて数人に発表させる。

【意欲化の過程】

これからも、相手の気持ちを理解して友達と関わりたいという気持ちを高めさせるために、友達に失敗を許してもらって嬉しかった経験を書いている友達の日記を紹介する。

本時の学習や教師の説話を、今後の日常生活での児童の行動のきっかけや実践化に少しでもつなげていきたい。

6 本時

(1) 本時の目標

相手の過ちなどに対して、自分にも同様の経験があることに気づき、謙虚な心、広い心で受け止め、相手を尊重した上で、自分の思いを伝えようとする態度を養う。

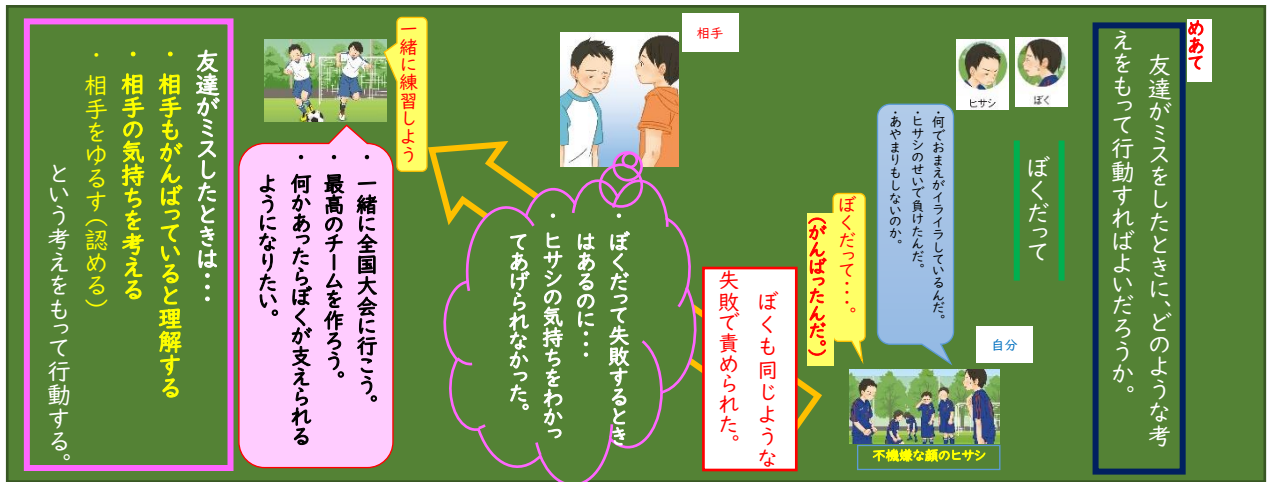
(2) 実際

過程	主な学習活動と予想される児童の反応	時間	指導上の留意点(交流活動① UD②) 資資料 ※評価
意識化	1 道徳的価値に対しての自分の立ち位置を確認する。	2	② 今までの経験を想起できるように、リレーに取り組んでいる写真を提示する。 ② 本時まで、自分の立ち位置を視覚的に捉えることができるように、ロイロノートで四象限表に自分の立ち位置を表現させておく。
焦点化	2 本時のめあてをつかむ。 友達がミスしたときに、どのような考えをもって行動すればよいだろうか。	5	① 本時の学習に対しての問題意識をもたせるために、失敗した友達を責めてはいけなく分かっているながらも、腹を立ててしまうという友達を責めてしまう心の弱さに気付かせる。
追究・深化	3 登場人物の心の動きについて考える。 (1) 範読を聞き、場面を焦点化する。 (2) 「ぼく」の心の動きを考える。 ア 「ぼく」はどのような思いでヒサシの家に向かったのかを話し合う。 ・ ごめん。謝りたい。 ・ 自分も同じ失敗をするときがある。 ・ ヒサシのことを分かってあげられなかった。 ・ ヒサシも頑張っていたのに。 イ 「ぼく」はどんな悪いことをしたと感じ、なぜ謝罪したいと思っているのか話し合う。 ・ ヒサシの気持ちを考えなかったから。 ・ ヒサシも頑張っていたから。 ・ 自分も同じ失敗をすることがあるから。	13	② 場面を焦点化しやすいようにあらすじを確認する。 資 場面絵 中心発問 「どういう思いでヒサシの家に行ったのだろう。」 ② なかなか意見が書けない児童には、ヒサシの家に向かう前に、自分も同じ失敗を責められたこと、ヒサシのことを思い出し、ぎゅっと手に力が入った場面を押さえ、どのように思ったのかを考えさせるようにする。 ① 自分の考えをノートにまとめさせる。 ① 自分の考えをまとめることができた児童には、多面的・多角的に考えることができるように、席を離れ、友達の意見と比べさせる。その際、同じ考えの時には☆、自分の考えと違う場合には◎を付けさせる。 深める発問 「ぼくは、どうしてヒサシに謝らなくてはいけなくのだろう。」 ② 自分の感情が先に立ち、ヒサシに辛いことを言ってしまった時の「ぼく」の感情に気付かせるために、試合後の控え室でのやり取りについて振り返らせる。 ① 考えを共有するために、全体に発表させる。発表マーク
自覚化	4 自分たちの生活に合った問題場面についてグループで学び合いをする。 (1) ミスした友達に対してどのような言動を取るかをグループで学び合う。【グループ】 (2) 全体で学び合う。【全体】 5 友達とよりよい関係を築くために大切な気持ちについて考える。 ・ 相手も頑張っていると理解する。 ・ 相手の気持ちを考える。 ・ 相手を許す(認める)。 友達がミスしたときは・・・ () という考えをもって行動する。 6 今までの自分を見直し、これから大切にしていきたい気持ちを振り返りカードに記入する。 (1) 振り返りカードに書く。 (2) 発表をする。	22	① 自分事として捉えさせるために、導入で立ち位置を明らかにした事例から、どのような言動を取りたいかを話し合わせる。 ② 自分の考えをまとめることができるように、十分に時間を確保する。 ① 多様な考えに触れさせるために、グループで学び合いをさせる。その際、なぜそのような言動を取るのか理由も付けて書かせる。 ② 自分の心の変化にも気付かせるために、アンケート結果【表2】の4、5を活用する。 ※ 経験を基に、自分事として捉えることができたか。 価値に迫る発問 「友達とよりよい関係を築くために大切な考えや思いは何ですか。」 ② 多様な考えを引き出すために、まとめの言葉を各自で考えさせる。 ② 考えを共有させ、実践への意欲を高めさせるために本時を振り返り、めあてに対する自分の考えやこれから大切にしたい気持ちなどを書かせる。 ※ 大切にしたい気持ちや考えを見付け、自己を見つめ直すことができたか。
意欲化	7 道徳的価値に対しての自分の立ち位置をもう一度明らかにする。 8 教師の説話を聞く。	3	② 学習をとおして道徳的価値に対して自分の立ち位置に変化があった児童に四象限表の立ち位置を移動させる。 ② 更に実践意欲を高めるために、友達に失敗を許してもらって嬉しかった経験を書いている子供の日記を紹介し、相手を理解することがよりよい人間関係を築くことにつながるということを伝える。

(3) 評価

相手の過ちなどに対して、自分にも同様の経験があることに気づき、謙虚な心、広い心で受け止め、相手を尊重した上で、自分の思いを伝えようとする態度を養うことができたか。

(4) 板書計画



勝利目前で
友達がバトンパスミス

ゆるす	
イラッと しない	イラッと する
ゆるさない	